

第15回新城市若者議会

令和4年2月23日（水）午後7時から午後8時
新城市議会 議場

開 会 午後7時

1. 若者議会議長あいさつ

○石内輝議長 若者議会議長の石内です。若者議会条例第6条第1項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。ただいまから新城市若者議会市長報告を行います。

5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、様々な活動を行ってきました。何度も議論を重ね、担当課との意見交換を行い、8月の第6回の若者議会では、政策の中間報告を行いました。そして、令和4年度若者議会予算事業計画を策定し、11月に市長へ答申しました。

本日は、11月に行った市長答申以降、4つの事業についての進捗状況を報告させていただきたいと思います。また、報告後に時間をいただき委員から今期1年間の活動を振り返らせていただきたいと思います。

それでは、事業ごとの報告に移ります。

2. 事業報告

○石内輝議長 初めに、PR委員会による「若者議会に見て触れて～キミも主役になっちゃお～事業」です。発表者は、木戸 ゆめ（きど ゆめ）委員、菅沼 大輝（すがぬま ひろき）委員、渡邊 花奈（わたなべ はな）市外委員です。よろしくお願いします。

○木戸ゆめ委員 PR委員会の発表を行います。よろしくお願いします。

私たちが提案する事業は、『若者議会に見て触れて～キミも主役になっちゃお～』事業です。

私たちは、「より多くの若者に若者議会やまちづくりに参加してほしい」ということを目的とし、政策を検討してきました。新城市や若者議会についての知識を深め、体験することは、若者議会の固いイメージを払拭し、参加を迷っている人たちの挑戦への後押しに繋がると考えます。そこで若者が活躍できる

まちづくりへの足掛かりとして、3つの政策案を考えました。

1つ目の政策は、『みてふれ講座』です。市内外のまちづくりに興味がある若者を対象とし、若者議会を知る機会や、参加するきっかけを作ることを目的としました。講座に対して気軽に参加してもらいやすい様に、午前はアイスブレイクとして巨大すごろくを企画しています。このすごろくでは、止まったマスに応じて新城市や若者議会に関するクイズが出題されるようになっており、参加者同士で親睦を深めながら新城市に対する知識を深められる作りになっています。午後からは若者議会の模擬体験と称し、参加者同士で新城に関するテーマについて話し合いを行ってもらいます。時間内にチームでの意見をまとめ発表をしてもらうことで、実際の若者議会での話し合いの雰囲気を肌で感じてもらえればと考えています。

また別日に、若者議会に、より関心を持っている方を対象に「若者議会お悩み相談会」を行います。若者議会への参加を考えている方がこれまでの経験者に相談や質問ができるような内容にすることで、参加への後押しにつながると思います。

○菅沼大輝委員 2つ目の政策は、アンケートの実施です。若者がまちづくりに積極的に参加する機会や、新たなアイデアが生まれるきっかけとして、市内高校の生徒、無作為に選ばれた市内の若者500人を対象にアンケートを実施します。このアンケートは9月に配布後一月ほどの回答期間を経て10、11月に集計します。内容は、若者議会の認知度や、政策案のアイデアなどです。

3つ目の政策は、若者議会のマスコット作成です。若者議会のPR活動に活用することで市や若者議会を知るきっかけづくりになると考えます。マスコットは若者議会の経験者からデザイン案を募集し、その中から選出します。集まったデザイン案をまずマスコット

実行委員が数案選考し、その後若者議会全体に投票という形で選考します。実行委員会は私たち7期のPR委員会メンバーが引き受ける予定です。また今期委員会の提案事業の各種チラシにもマスコットを使用する予定なのでできるだけ早期完成を目指します。

○渡邊花奈市外委員 最後に、新城市へのメリット、効果についてです。大きく3つあります。

1つ目は、若者議会はもちろん新城市を深く知ることができ、若者同士の交流を深めることができます。

2つ目は、若者議会への参加を考えている子、参加をしようか悩んでいる子などに興味を持つきっかけや不安を取り除き参加への後押しができます。

3つ目は今後の若者議会の活動への参考資料として活用でき、また若者議会の周知を図ることもできます。

今回の政策を土台とし、若者の積極的なまちづくりへの参加を促すことで、新城市をより活気のあるまちに作り上げることに繋がります。このことから、若者議会はますます発展していけるのではないのかと思います。

以上でPR委員会の発表を終了します。
ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございました。自席にお戻りください。次に、観光委員会による「日本一あつい冬事業」、「Superバズるバス事業」です。発表者は、島田 悠花（しまだ ゆか）委員、平井 緑空（ひらいりく）委員です。よろしくお願いします。

○島田悠花委員 私達は、観光をテーマに2つの事業を答申し、答申後も事業の詳細について検討してきました。

1つ目の「日本一あつい冬事業」は、冬の閑散期にも観光客に来てもらい、1年を通して観光客が新城市を訪れるよう自然や食材の

おいしさなどの新城市の魅力を活かした旅行プラン開発をする事業です。市議会の皆さんとの意見交換会において、事業を実施する場所や地域イベント等とのコラボ、市外へのアプローチ方法など事業執行におけるアドバイスや課題をいただきました。次年度の事業執行時に、大学生を中心とした若者との旅行プラン検討を行う際は、そういった点も検討してもらえたらと考えております。

2つ目の「Superバズるバス事業」は、高速バス路線の走行ルートが変更され、今後首都圏や関西圏からバスで新城市へ来る方が増えることを見込み、接続するSバスもつくる新城線の利用者に向け、Sバス車内や観光地で市内の歴史や観光地を紹介することで再度新城市に来てもらい、また、観光客の皆さんに新城市の観光地を情報発信してもらうことを目的とした事業です。

答申後は、この事業の具体策について詳細を詰めてきました。録音した音声ガイドをSバス車内で流す事業は、答申後に録音するガイドの小ネタを収集しリスト化しました。録音するのは、私達観光委員会のメンバーや第8期の若者議会のメンバーにお願いしていきたいと考えています。往路はSバス湯谷温泉もつくる新城線沿線の観光地、歴史情報を紹介し、復路は沿線以外の市内観光地情報を流したいと考えています。

○平井緑空委員 Sバス湯谷温泉もつくる新城線沿線の観光地や歴史情報を記載したチラシの作成については、Sバス沿線の観光スポットをまわり、チラシに掲載する写真を撮影しました。表面に沿線の観光スポット情報を掲載し、色合いにもこだわって作成しました。市内の観光地情報を検索できるよう、ホームページを作成し、そのリンクをQRコードにして掲載します。ホームページには、市内観光情報を掲載しているホームページのリンクなどを掲載していく予定です。

また、親しみやすいようバスのキャラクタ

ーデザインもしました。キャラクターの名前は、「Y u y a ・ S ・ M o k k u r u」、「通称ゆっくる」です。裏面は、鳳来寺山の写真撮影スポットを紹介する内容にしました。散策目安時間も掲載します。Sバス車内の座席等に観光地情報を掲示する事業については、座席毎に違う観光地情報を掲示します。デザインは読みやすいようにシンプルに作成しました。「しんしろイトコ」というハッシュタグを付け、観光客の皆さんに市内の観光地の写真や動画を投稿してもらうため、観光地にはるポスターのデザインも作成しました。市内観光地にご協力いただき、掲示していきたいと思えます。

最後になります、私達は今回の提案事業を通して、新城市と関わる人を増やし、新城市の魅力に気づき、好きになってくれる方が一人でも多く増えてくれることを願っています。

以上で、観光委員会からの発表を終了します。

○石内輝議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、交流委員会による「ぶかつなぎ事業」です。発表者は、梅田昌菜（うめだ しょうま）委員、関原 絹（せきはら きぬ）委員です。よろしく願います。

○梅田昌菜委員 交流委員会の発表を行います。よろしく願います。

私たちは、地域で活動する団体と中学生をメインとした市民を趣味という幅広い枠組みで繋げることで、市民同士が交流し、人と人が繋がるきっかけを作りたいと考え、昨年政策を答申し、その後も事業の詳細について検討を行ってきました。

政策内容である趣味活サイトについては、サイトの内容をはじめ、募集する際のポスターデザインや、周知用チラシ、団体掲載チラ

シのデザインについて検討を重ねました。どういったデザインであれば市民の方の目にとまるのか、どういった内容であればわかりやすく伝わるのか、私たち若者の目線を取り入れつつ相手の立場になって考えました。市議会との意見交換では議員さんにもアドバイスをいただき、さまざまな視点から意見を取り入れることができたと感じています。

また私達交流委員会では、答申事業とは別に、市民同士が交流し繋がりをもってほしいという思いから、交流ノートと若者掲示板というものを実験的に行いました。交流ノートとは直接会うことがなくてもノートに書き込むことで気軽に交流し、市民同士繋がりができるようにと新城市図書館とまちなみ情報センターに設置しました。若者掲示板は若者が何かイベントの告知や仲間を募りたいときなどに活用してもらい、繋がりを作ってもらおうとして実施したものです。

若者掲示板は活用がなく課題が残る結果となりましたが、交流ノートは多くの方に利用してもらうことができました。例えば「受験が不安だ」という書き込みがあれば、「一緒に頑張ろう」と励ましの言葉が書かれていたり、誰からともなく絵しりとりが続いていたり、幅広い利用が見受けられました。今後はこのノートが、直接的に市民同士が繋がるきっかけとなったり、このノートで少しでも利用者が温かい気持ちになり、郷土愛がはぐくまれるきっかけになれば嬉しく思います。

○関原絹委員 現在コロナ禍もあって、人と人との繋がりが希薄になっており、私たちは人が繋がるきっかけを作りたいと考えようになりました。また、少子高齢化に伴い、中学生の部活の選択肢が少なくなる一方で、市内には受講生を募集しているスポーツ団体や文化団体が多く存在しています。

私たちは、これらの現状を踏まえて、地域で活動する市民を幅広く趣味という枠組みでつなげ、市民同士が交流し、繋がることがで

きる仕組みの1つとして趣味活サイトを作りたいと考えました。

趣味活サイトには市民の自発的な交流が行われるようになる足掛かりになってほしいと考えています。また、趣味活サイトによって、若者のやりたいことができる環境整備ができ、中学生に部活以外の選択肢を用意できます。これによって、学校外での繋がりを作ることができます。

これらの要素から、新城市民の交流が増え、市民の満足度が向上し、新城市がさらに活気がある市になり、世代のリレーが行われるまちになることを願っています。

以上で交流委員会の発表を終わります。ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございました。出席にお戻りください。

3. 1年を振り返って

○石内輝議長 続いて1年の振り返りを行います。各委員順番をお願いします。

初めに、木戸ゆめ委員をお願いします。

○木戸ゆめ委員 PR委員の木戸ゆめです。私は、1年の振り返りテーマいうよりも、2年間若者議会に参加して感じたことを発表します。

突然ですが、市をプリンとして想像してみてください。市民はカスタードの部分、普段市のことを考えよりよくしよう、そう思ってください。カラメルの部分とします。では私たち若者議会とはというと普通の若者でありながら、市の付属機関として予算があるので真ん中に位置します。その真ん中にいて、そこで感じたことは、まちをつくるのは大きな部分のカスタード側ということです。

昨年、若者議会で駅前の桜のことについて考え続けた昨年度は市民からの熱い思いというものを感じました。また今年度、PR委員

会内でアンケートを実施して、より多くの若者の意見を反映しよう、そう思ったのもカスタード側の意見を取り入れなければならないと思ったからです。カスタード側すなわち市民の意見をとり続けることが、まちづくりにおいて重要なことだと気づきました。

話は少し大きくなりますが、日本の社会でも同じようなことがいえると思います。カラメル側の政府の意見は、どこか他人事だと思ってしまいがちです。来年度で有権者となる私は、住んでいる国を作るのは国民、その一人であることを意識し、まちや社会のことをより知った上で、代表者を選ぶことが大事なんだと気づきました。

そして、私の思う理想の社会はプリンのように政治に関わる人、関わらない人、2つに分かれてしまう社会ではなく、若者議会のように市に興味のある若者が増えたり、そういった組織が増え、市民全体、国民全体で社会を作っているかたちです。これはカスタードとカラメルの中の若者議会にいたから感じられたことです。

ここでのたくさんの経験、出会いに感謝して、これからも歩み続けていきたいと思っています。

2年間、ありがとうございました。

○石内輝議長

ありがとうございました。次に島田悠花委員をお願いします。

○島田悠花委員 観光委員会の島田悠花です。私は若者議会に参加したことで、この1年とても充実したものになりました。ここにいる皆さんと初めて顔を合わせたのも、もう約1年前のことだと思うと、時間の流れの速さを感じます。

私が若者議会に参加した理由は、若者議会を通して新城市のため、また自分のスキルを磨くためでした。若者議会に参加することで、

もっと新城市を知り、新城愛を深めたいと思いました。また、私は今年から社会人になります。そのときに備え、コミュニケーション能力や積極性を身につけたいと考えていました。

そして、1年経った今、私はこれらの目標を達成することができたと考えています。観光委員会の皆さんと、新城市の観光地に行き、新たな新城市の好きな場所を見つけ、以前よりも新城市が好きになりました。また、普段関わりの少ない年上の方との交流を経てコミュニケーション能力を、そして皆さんと意見を交わすことで積極性を身につけられたと思っています。

この1年、若者議会を通して学んだことをこれからも新城市のために役立てていきます。1年間ありがとうございました。以上です。

○石内輝議長 ありがとうございます。次に菅沼大輝委員をお願いします。

○菅沼大輝委員 PR委員会の菅沼大輝です。

私が若者議会に参加したきっかけは、中学校の学年主任から参加を勧められ、面白そうだからという、今思い返すと内容の薄い不純な動機でした。ですが、若者議会委員としての1年間を通して、まちづくりに対する考え方が変わりました。

第7期若者議会に参加した当時は、まちづくりといたら市役所や洗練された大人の方々が進めていくもので、私たち高校生はその話し合いの土俵には立てないと勝手に考えていました。しかし、PR委員会で政策を考えていくうちに高校生であっても、まちづくりに関わる権利がある。むしろ、新城市民の1人であることを自覚して、積極的に参加すべきであるというような考え方に変わりました。

私が1年間所属していたPR委員会で話し合っていた「どのようにして若者議会の認

知度を向上させるか。どのようにして若者議会の応募人数を増やすか」というテーマは、過去にも似た事業が提案されたこともあると思います。若者議会が長期間ぶつかつてきた壁の解決を目指すという大変なものでした。ですので、委員会では一度決めたことに本当にそれで若者は若者議会に興味を持つのか、今定めたターゲットに対して、この政策は本当に有効であるのか、後に問題点や改善点が見つかり、その部分を白紙に戻すこともありました。また自分自身も解決策が何も思いつかず、黙り込んでしまうこともありましたが、周りの皆さんに支えられながら、少しずつ自分の意見を持つことができるようになりました。

ここで得られた自分の意見をしっかり持つということは、この先の学校生活や、いつか社会に出た時に多く役に立つと考えます。来年度も若者議会は継続して応募しようと考えています。私たちの故郷、新城市がより住みやすく楽しいまちになるよう、この1年間で学んできたことを活かしていきたいです。

また、ボランティア活動や市役所が主催している市民まちづくり集会にも積極的に参加して若者議会とは違った角度から、市民として、1人の若者としてまちづくりに参加していきたいです。

1年間ありがとうございました。以上で終わります。

○石内輝議長 ありがとうございます。次に平井緑空委員をお願いします。

○平井緑空委員 観光委員会の平井緑空です。

私は、中学生のころから地元地域をよりよくするための活動に積極的に参加していて、高校進学を機にもっと幅広く活動したいと思い、若者議会に参加させていただきました。

入った当初は、高校生になったばかりで会議をどのように進めていくのかわからないと

いった不安なことばかりでした。ですが会議の回数を重ねていくにつれ、メンターの皆様や、市役所職員の皆様のサポートもあり、とても早い時期に不安というものは無くなりました。

そして、不安なことが無くなると、自然と自分の意見に自信が持て、よりよい会議をすることができたと思っています。普段の会議では、年齢や立場の違う人と話し合う機会があり、今まで同年代の人としか活動していなかった私は、自分にはない視点での意見に、そんな見方もあるのかと驚き、また新城が好きという共通の視点を持つ人同士での話し合いはとても楽しく、人の数だけ意見があり、自分の視野を広げることができたと思っています。

最後に、このような貴重で濃い1年間を与えてくださった市役所の職員の方々、メンターの方々、第7期若者議会委員の方々、若者議会に関わる多くの方々にお礼を申し上げます。

1年間ありがとうございました。以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございました。次に梅田昌栄委員をお願いします。

○梅田昌栄委員 交流委員会の梅田昌栄です。私が若者議会に参加した理由は中学生議会というものに参加をして、地域の方の笑顔に触れたからというすごく単調なものでした。しかし、大きく若者議会となってみると、やはり規模が違い、どうしても自分の意見は反発され、無くなってしまうものだということを思っていました。

しかし、実際話し合ってみると、自分の意見は受け入れられ、さらに大人の方々の意見を交え、てこ入れされた状態で、形を変えて、自分の意見が実施されることをすごく実感し

ました。

しかし、私はとても人前で意見を言うことがすごく苦手で、今もすごく戸惑いがあります。この1年で私は成長したと思いますが、それも微々たるものだと思います。

これからも、私は新城市を愛し、新城市のために動きたいと思っていますので、来期第8期も募集に参加させていただいています。

1年間ありがとうございました。以上で終わります。ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございました。次に瀬野和奏委員をお願いします。

○瀬野和奏委員 PR委員会、高校一年生の瀬野和奏です。

まず、1年間もとても楽しく若者議会に参加することができました。そして、私はこの1年間でもとても成長できたと感じています。

私は1年前、人前で話すのが苦手でした。“自分を変えたかった”それも私が若者議会に参加した理由の一つです。

新型コロナウイルスの影響で、Zoomでの会議も多く、初期の頃はどうやって自分の意見を切り出せばいいのか、そんなことを迷っているうちに会議が終わってしまった、なんてことがありました。でも、1年を通して、今では自分の意見を進んで言えるようになり、若者議会以外の場でも進んで前に立てるようになりました。

人前で話すのが苦手だった私は話せるようになったというよりも、得意になった感じがあります。

また、私は今期PR委員会に所属しておりました。PR委員会の委員の方は、私の尊敬する人ばかりです。自分が見えていなかった視点からの意見がたくさんあり、私もみんなが見ないような視点からの意見を言えるような人になりたいと思っています。

また、みてふれ講座のチラシづくりでは、

どうしたら目にとめてくれるか、みんなで意見を出し合い、最高なものができて本当によかったと思います。

最初は慣れない高校生活の中で、若者議会と学校と習い事と両立ができるのか不安でしたが、1年間無事走りきれてよかったです。貴重な経験と楽しい時間をありがとうございました。

以上で終わります。ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございました。次に関原絹委員をお願いします。

○関原絹委員 交流委員会の関原絹です。

私にとって若者議会の委員として過ごしたこの1年は、とても大きく変化のあった1年でした。私はもともと人見知りなところがあり、自分から率先して行動することは苦手だと思っていました。なので、この活動も始めたばかりの頃は、とても大変だと感じていました。

不安なこともありましたが、他の委員さんやメンターさん、事務局の皆さんとの交流が深まるにつれて少しずつ、自分らしさを出せるようになり、楽しめるようになりました。

交流委員会では、主に新城市の現状と理想の将来について話し合いました。趣味活サイトや交流ノート、掲示板についてアイデアを出し合って話したことはとても楽しかったです。

また、自分とは違う意見を持った人の話を聞くことはとても興味深く、他の視点からの意見を知る機会を得ることができました。そして、普段気にしていなかった地元新城のよいところにたくさん気づくことができました。大人になっても、少し新城市に住み続けるかもしれないし、離れることになるかもしれませんが、この1年で自分の地元についてたくさん考える機会があったことは、自分の将来

にとってもいい影響を与えることができたと思います。

若者議会での活動を通して、たくさんのことを学び、成長でき、とても充実した1年を過ごすことができました。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございました。次に渡邊花奈市外委員をお願いします。

○渡邊花奈市外委員 PR委員会、市外委員の渡邊花奈です。

私は第5期若者議会でも市外委員として参加させていただき、その年はまだコロナウイルスがまん延する前でしたので、市外の藤が丘マルシェや軽トラ市などのイベントに赴いて、広報活動する機会が多くありました。人と触れ合い、自分の言葉で伝えるという経験はとても有意義なものでした。

しかし今期はコロナウイルスの影響により、市外に行くことが難しくなったり、様々なイベントが中止になってしまったりしたので、直接人と触れ合って、新城市や若者議会をPRする機会が無くなってしまい、満足する広報活動ができなかったと感じました。こうした機会が失われてしまった分、チラシやSNSなどで情報発信をしていくことが重要だと感じました。

この第7期若者議会で培った経験やアイデアを活かし、これからも新城市や若者議会についての情報を発信していきたいと思っています。ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございました。次に大山絢加市外委員をお願いします。

○大山絢加市外委員 観光委員会の大山絢加です。

中学校の生徒会からちょうど10年後、再

び新城市を盛り上げる企画に参加できたことをとてもうれしく思っています。

私は今、市外に住んでいます。コロナ禍になり自然へ遊びに方々が増えたと感じたこと、新城のよさを再実感しています。

小さな子供から将来充実した暮らしができるまちをこれからも一緒に考えていきたいです。ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございます。次に井上友誉市外委員をお願いします。

○井上友誉市外委員 交流委員会、市外委員の井上友誉です。

今年1年、若者議会を通じて地元である新城市に携われたことを深く感謝しております。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、このようにZoomで参加することが数多くあったのですか、そういう状況でも新城市をより良くするために政策を考えることができたのではないかと考えております。

今回、交流委員会で1年間通して考えてきた交流というものは、新城市若者議会だけでは実現しないものだと考えております。新城市に住む市民の方々の協力あってこそ、最終的に実現するものだと考えているので、これから、私たちが考えた政策がうまくいくことを心から願っています。

1年間本当にありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございます。

4. 市議会議長挨拶

○石内輝議長 それでは、続いてお忙しい中ご出席いただきました、長田市議会議長様からごあいさつをいただきたいと思います。

○長田共永市議会議長 ようこそ議会へ。君たちとこの場で会うのが、これで2回目です。本日も、滝川副議長と同席させていただいて

おります。市議会議長の長田でございます。

最初にこの場で君たちの顔を見たときより、今夜の顔はほっとし、そして力強く、ちょっと嬉しくなましくなっていると思います。

冒頭、君たちに報告することがあります。今週火曜日、3月の23日、この場において予算が可決されました。新年度の予算の中には当然、君たちの夢であった市長への4つの事業が含まれています。そのことは、君たちの夢が形になると同時に、この夢のために議会も、行政も、そして君たちも責任を持つということです。改めてその重さと、そして、自分たちの夢が叶うことを楽しみに待つてほしいと思います。そして、最初にこの場で会ったときのように、来年度は市長への答申だけでなく、市民の権利である議会への請願、陳情というものがあります。堂々とそうした場でも君たちの顔が見たいですから、議会へ関心を持っていただき、そんな行動も起こしていただきたいと思います。

全世界の、大人たちの共通の言う言葉に「今どきの若いものが、どうか」そんな言葉があります。それは決して若い者を馬鹿にしているわけでも、蔑んでいるものではありません。大人たちが君達への期待を込めたといえると思っております。

大人は変化を好みません。まちづくりにおいても、どうしても、同じこのまちを良くしようと思っても大人には守るべきものがたくさんあります。君たちにはその分、時間があります。是非このまちを愛し、まちづくりに興味をこれからも持っていただきたいと思っています。

議長は今、毎朝一つのウェブ動画をユーチューブで見えています。君たちも知っているかと思いますが、そのウェブムービーは、3月初旬に公開され、舞台は旧新城東高校。そして新城有教館が主な舞台で、このまちの場所がいろいろ出ています。この舞台だから、自分の知ってる身に通った高校が舞台だから、

それで見ているわけではありません。ましてや、そのウェブムービーに知っている俳優も歌っている歌手も議長は知りません。そのウェブCMの中に、このような言葉があります。

「青春とは密そのものだったんです。」大人の皆さんが思うような青春ではなかった。でも私たちは失ったものばかりではありません。代わりに得た大切なものもあります。どうしてもその姿が君たちと重なります。もしかすると君たちの携帯の写真は、マスク姿ばかりの写真なのかもしれません。それでも、きっとマスクを外して笑える日がきっと来るだろうし、そしてこのコロナ禍の中で、青春時代を迎えたのも、きっと君たちなら乗り越えられるという天からの試練だと私は思います。

先ほども触れた若者委員がいましたが、このまちにはルールブックがあります。それは、自治基本条例です。この理念は世代のリレーのできるまちというものです。改めて議長として君たちはまちづくりの主役であると感じています。そんな自覚を持ってほしいと思います。まちを愛すと言った委員の方もいます。かのマザーテレサは愛の反対は、何かと問われたときに無関心であると言ったそうです。このまちにこれからもずっと関心を持って欲しい。そして、どんな些細なことでもいい。このまちを想うだけでいい。そんな思いを込めて、市議会議長の挨拶とします。1年間お疲れ様でした。そして、ありがとう。

○石内輝議長 ありがとうございます。

4. 市長あいさつ

○石内輝議長 最後に、下江市長からごあいさつをいただきたいと思います。

○下江洋行市長 新城市長の下江洋行です。

本日は昨年5月の所信表明から数え、第15回、第7期若者議会としては最後の会議となりました。昨年の12月に皆様から気持ち

の、思いの詰まった事業について説明をしていただき、本日はその後の経過を含め、改めて皆様が検討を重ねた事業についてより深く聞くことが、知ることが出来ました。

今、長田議長も言われましたように昨日3月の定例議会が閉会し、若者議会の提案した4つの事業の予算は全て議決を受けましたので、この来月4月以降に実行していく流れとなります。市では皆様の思いをしっかりと引き継ぎ事業の実施をしまいたいと考えています。

また、ただいま皆様から1年の振り返りをお聞きすることができました。まちのことをよく知り、よく知り勉強することが主権者としての責任であるというようなこと。そして、まちづくりに対する考え方がこの1年間の取り組みで変わった、自らがまちづくりのプレーヤーとして力になれる、そういう自信を持ったご意見、さらには若者議会に参加し、まちのことをよく知ることで、今まで以上にこのまちのことが好きになった、こんな言葉も聞きました。そして多くの皆様から、自分自身が、この1年間成長したんだと実感を持っている。そうしたことも言葉にありました。その根拠は何なのでしょう。それはおそらく、いろんなこと、個人が積極的に取り組もうこういう気持ちが、強くなったのではないのでしょうか。皆様方の、これからは新城市は若者の力に期待してますし、若者の力を必要としています。そのためにできる応援はしっかりしていきたい。このように思っております。

振り返りの中でも取り上げられていましたけれども、今期も新型コロナウイルスと向き合いながらの1年であったと思います。学校での生活や職場環境、友人や家族との関係、ひいては就職や進路の選択にも大きな影響があったのではないのでしょうか。自分達がやりたかったこと、思い描いていたことができず、さまざまな悔しさややるせなさを感じた1年

でもあったかと思います。しかし得たものも多くあるはずです。このコロナ禍により、新城市を含め国内あるいは世界中でオンラインという距離を気にすることなく瞬時に人と人とを繋ぐコミュニケーションの手法が広まってきました。実際に若者議会の会議でも奈良県や静岡県からオンラインで参加していただいた方もいると報告を受けています。私たちはより気軽に距離を気にすることなく瞬間に遠く離れた場所でも空間を超えて繋がることができるようになりました。

このようにコロナはさまざまな繋がりという技術や価値観を私たちに与えました。コロナ禍で失ったものばかりを数えるのではなく、ここで得たものを活かして前に進んでいかなければならないと考えています。

これから皆様はさまざまな進路に分かれていくと思います。進学や就職、あるいは新たな環境で生活をしていく方もいるでしょう。皆様には、どういった道に進んだとしても、これからもこの若者議会で培った繋がりを、これからも人との繋がりを大切にしていきたいと思います。

新城市も人と人が手を取り合い、声を掛け合い、繋がることで支え合いを育み、みんなで助け合う地域作りができるまちにしていきたいと思っています。

結びになりますけれども、本日この最後の日を迎えるまでに多くの方の支えがあったと思います。メンターの方々、そして市外委員の皆さん、何よりも見守り、応援をいただいたご家族、学校の先生、会社の上司、また仲間たちへの感謝をこれからも忘れないでいただきたいと思います。

皆さん本当に1年間お疲れ様でした。これからの皆さんのご活躍に心よりエールを送り、感謝の言葉とします。ありがとうございました。

○石内輝議長 ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度以上にリモートでの会議が増えた若者議会でしたが、各委員会も試行錯誤を繰り返しながら、この市長報告までの期間、活動を行ってきたと思います。納得いく政策の形は出来上がったでしょうか。全員がそのように感じるとは限りませんが、新城への熱い思いから、この政策が生み出されたということは間違いなくあります。

最後に私自身の振り返りをお話しさせていただきます。私も、第6期から2期連続で参加している委員の1人です、そして、今期では、議長を務めさせていただきました。第6期で活動しているときは、きっと議長になろうなんて思ってなかったと思います。なぜ議長に、今もこうやってこの場でなっているか、それは第6期での経験が大きいと思います。私自身も、人前で意見を言ったり自分の意見を、述べるということは得意としておらず、第6期若者議会の中で自分に自信がついて、その経験から立候補しました。その成長があって今、第7期若者議会議長として1年間仕事を全うすることができました。

また今年度では、昨年度第6期で提案したビンゴd e 移住政策に実際に参加し、この新城市に移住してきてくださった方とお話だったり、ビンゴでd e 移住政策の達成者の報告だったり、いろいろと嬉しいこともありました。僕にとってこの第7期若者議会は、自分の成長というより第6期で成長した部分をうまく生かした若者議会という場だったと感じています。

第6期の経験がありながら、なかなか頼りない部分だったり、受験生ということもあって模試の関係で全体会だったり委員会になかなか参加できないこともありすごく申し訳なく思っています。ですが、1年間そうやって全うすることができたのは、第7期若者議会の委員の皆さんだったり、職員の皆さん、担当課の皆さん、市議会の皆さん、そして市民

の方々の支えがあつてこそだと思っています。

1年間本当にありがとうございました。

これをもちまして、第15回新城市若者議会市長報告を閉会させていただきます。

閉 会 午後8時